

令和6年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	特 2		学校名		県立水戸聾学校										学校長名		本橋 源己			
副校長名							教頭名		榎戸 望						事務（室）長名		宮部 裕之			
教職員数	教 諭	53	養 護 教 諭	1	常 勤 講 師	7	非常勤 講 師	0	実 習 助 手	4	寄宿舎 指導員	15	事務職員	4	技 術 職員等	15	計	99		
幼児・ 児童・ 生徒数	部		1 年(3 歳児)		2 年(4 歳児)		3 年(5 歳児)		4 年		5 年		6 年		合計		合計 クラス数			
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女						
	幼稚部		2	0	2	0	2	0	2	0	4	4	1	1	6	0	4			
	小学部		1	0	4	3	5	3							17	11	11			
	中学部		1	1	5	4	1	0							7	5	4			
	高等部		2	2	2	5	2	3							6	10	5			
	専攻科																			
																計	33	26	24	

2 目指す学校像

◆安全・安心で暖かな学校 ◆互いに認め合い、主体的に学び合い、そして高め合える学校 ◆家庭・地域社会と連携し、子供の育ちを支える学校
--

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む）

項 目	現 状 分 析	課 題
学校経営	・関係機関と密接な連携が必要な家庭において、関係機関の支援を受け入れにくい状況が認められた。（3家庭） ・いじめアンケートの結果、2件を認定し、家庭と連携を図り指導している。児童生徒は教員に適切に相談し、学校生活が送れている。 ・本校独自のコンプライアンスだよりは20号まで発行し、服務規律の確保に努めてきたが、個人情報の紛失事案が1件あった。	・支援が必要な家庭へは、担任を中心に話をよく聞き、校内で情報共有を図る。 ・聞こえにくさによる誤解はその場で解決を図り、良好な人間関係を構築する。 ・個人情報の取り扱い規定を作成したので、それに沿って適切に運用していく。

	・月 45 時間以上、年間 360 時間以上の超過勤務者はいなかった。 ・校長ブログ（60 回更新）に加え、各部でも積極的なブログの更新を図り、情報発信を行った。	・継続的な勤怠把握と個別指導を心がけるとともに、業務削減を進める。 ・継続的な情報発信を心がける。
学習指導	・ICT 活用は進んできている。児童・生徒による授業評価においても、「タブレットや電子黒板を使って、分かりやすく教えてくれる」とした回答が中・高等部では A 評価（4 段階の最上位）であった。 ・主体的・対話的で深い学びを支える話し合いの体制の構築、言語力や思考力の育成（自立活動分野）に力を入れていく必要がある。 ・三観点による学習評価の客観性を高める必要がある。	・今年度は ICT 活用に対する児童生徒の自己評価も行うとともに、活用事例集を作成し、個々の力量を高めていく。 ・自立活動の指導にも力を入れ、個に応じた指導の充実を図っていく。 ・校務支援システムによる個別の指導計画の作成を一斉に行う（幼稚部を除く）。また、評価方法の工夫を図る。

4 中期的目標

○一人一人の発達段階や教育的ニーズに応じた教育を行うため、個々の専門性を高めていくと共に、それらを確実に継承していくシステムの構築に努める。 ○個々の聴覚を最大限に活用すること、さらに適切な情報伝達手段等の併用により、コミュニケーション能力の向上を図ると共に、豊かな日本語を習得するための方法の研究に努める。 ○将来の自立や社会参加に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てるための系統性のあるキャリア教育の充実を図る。 ○特別支援学校のセンター的機能の充実を図るとともに、社会のニーズに応じた子の育成を地域社会と共に行っていく体制の構築に努める。 ○ワーク・ライフ・バランスを意識した働き方に努めるとともに、認め合える職場環境を構築し、組織として対応する体制を充実させる。

5 本年度の重点目標

重 点 項 目	重 点 目 標
安全・安心な学校生活（寄宿舎も含む）の中で、健康で豊かな生活の促進	①幼児児童生徒や保護者等との基本的信頼関係の構築 ②安全管理及び安全教育の推進（施設の安全点検、平時の危機管理、防災意識の向上、緊急時対応訓練等） ③SNS の適切な使用、いじめ防止、発達段階や特性等を考慮した「考え、議論する道徳」の推進等、人権意識の高揚に努める。 ④養護教諭や栄養教諭と連携した健康教育や食育の推進
確かな学力を育む授業力・専門性の向上	①個々の実態把握を基に、指導の個別化と学習の個性化を図った指導の充実と「協働的な学び」の推進 ②主体的・対話的で深い学びの視点からの継続した授業改善と 3 観点による学習評価の充実 ③時代の変化に対応した学習スタイルの充実（ICT の活用、プログラミング的思考等） ④目標設定シートにより根拠を明確にした自立活動の指導の充実（目標、内容の妥当性）

自立と社会参加にむけた教育の推進	①発達段階に応じた基本的生活習慣の確立（あいさつ、報告、生活リズム、時間管理等） ②各部の系統性をふまえたキャリア教育の推進（キャリアパスポートの活用の工夫） ③自己理解を深め、主体的な進路選択を促す職業教育やシティズンシップ教育の充実 ④地域資源を活用した学習活動（見学、実習等）や部活動の地域移行の推進 ⑤教員自身がワーク・ライフ・バランスを意識した働き方に努め、協力し合う姿を児童生徒に示すことで、働くことの楽しさや喜びを児童生徒に伝えていく。
センター的機能の充実、地域・関係機関との連携	①「聴覚障害教育支援センター」としての支援体制の強化と理解啓発 ②各種相談支援（早期教育含む）等におけるアセスメントに基づく指導助言の充実 ③個別の指導計画の機能的活用と在籍校との連携を図った通級指導教室の充実 ④情報発信に努め、P T A、同窓会、各関係機関等と連携した活動を推進